

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題

世代間衡平性・持続可能性・社会安全性等の倫理的観点を考慮した政策設計のための実践的研究

研究テーマ名

工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生

責任機関

国立大学法人東京工業大学

研究実施期間

平成30年10月～2021年9月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	葭田 貴子	東京工業大学・工学院・准教授
グループリーダー	河合 祐司	大阪大学・大学院工学研究科・助教
グループリーダー	松浦 和也	東洋大学・文学部・准教授
グループリーダー	稲谷 龍彦	京都大学大学院法学研究科・准教授
分担者	瞿 喬波	東京工業大学・工学院・修士学生
分担者	満塩 将也	東京工業大学・工学院・修士学生
分担者	村本 暢広	東京工業大学・工学院・学士学生
分担者	李 俊宏	東京工業大学・工学院・研究生
分担者	高橋 英之	大阪大学・大学院基礎工学研究科・特任講師
分担者	島谷 二郎	大阪大学・大学院基礎工学研究科・博士学生
分担者	三宅 智仁	大阪大学・大学院工学研究科・修士学生
分担者	野村 智清	秀明大学・学校教師学部・講師
分担者	相松 慎也	東京大学・大学院人文社会系研究科・特任研究員
分担者	山田 有希子	宇都宮大学・教育学部・准教授

分担者	岡田 大助	江戸川大学・基礎・教養教育センター・准教授
分担者	坂下 陽輔	東北大学大学院法学研究科・准教授
分担者（実務者）	福岡 真之介	西村あさひ法律事務所・パートナー
分担者（実務者）	平尾 覚	西村あさひ法律事務所・パートナー

配分（予定）額

（単位：円）

平成30年度	平成31年度 （2019年度）	2020年度	2021年度
2,925,000円	4,270,500円	4,270,500円	2,135,900円

※平成31年度（2019年度）・2020年度・2021年度については予定額

研究目的の概要

世代間衡平性や持続可能性が倫理的問題となるのは、少なくとも2つの要因があると思われる。第一に、社会と科学技術開発の進展の間にあるギャップ、第二に、現行の社会が前提している人間観の妥当性である。これら2つの要因が抱える問題は、脳科学や人工知能技術の進展によってますます鮮明になりつつある。本研究はこの状況をむしろ好機ととらえ、脳科学、工学、法学、哲学の各分野の専門家の協議を通じ、科学的にも社会的にも合意され、かつ先述のギャップを埋めるような社会基盤概念や価値観を提案し、その提案を現行の社会に調和的に反映させる取り組みの雛形を作成する。

研究計画の概要

各グループは各々の専門領域における基礎研究を基盤としながらも、その成果を定期的に共有することで、それぞれの課題を弾力的に更新し、研究全体を昇華させていく。ただし、各グループの役割は明確である。脳/認知科学グループは、他グループに対してヒトが自分自身の行為や思考に対して主体性を感じる脳や体の仕組みを実証し、他グループが考察を進める上で必要な科学的エビデンスやモデルを提示する。工学グループは、他グループが提案する社会制度が、一般市民の責任意識や法意識に適っているかどうかをヒューマンロボットインタラクション実験における主体性認知に注目して実験的に実証する。哲学グループは、他のグループから提示される社会制度の原理的考察を行いながら、各分担者が専門とする領域における政治思想モデルの明確化と改善案の模索を行う。法学グループは実務者である弁護士と協働して、ヒトと自律システムの具体的な法政策を提案する。